

SYLLABUS

2025



別府市医師会立別府青山看護学校

3年課程

専門分野 授業計画

専門分野は、基礎看護学、地域・在宅看護論、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、看護の統合と実践、看護学領域別の臨地実習を基本の領域とし、それぞれに科目を設定しています。また、各領域と密接な関係をもつ7つの領域横断科目を設定しています。総計53科目（66単位）で構成しています。

基礎看護学は、総計9科目（11単位）で構成し、看護の基礎的理論や安全で安楽な看護を提供するための基本的看護技術、看護の展開方法を学びます。また、専門基礎分野の知識を活用して科学的根拠に基づいた看護実践を導くために、患者を想定したシミュレーション演習を多く取り入れながら、気づきを看護専門職の臨床判断につなげるための授業を展開していきます。

地域・在宅看護論は、総計5科目（5単位）で構成し、地域で生活する人々とその家族を理解し、地域における様々な場で多職種と連携・協働しながら看護を実践するための能力を養うための基礎を学び、実習は地域に暮らす人々の様々な活動の場、生活の場で展開します。少子・高齢社会の進展とともに需給が増している看護師の役割が期待される分野です。

成人看護学5科目（5単位）、老年看護学3科目（3単位）、小児看護学3科目（3単位）は、発達段階別の看護に加え治療が必要な人々に対する看護を健康段階別に学ぶ領域です。講義をとおして成長発達を理解し、様々な発達段階・健康状態にある人々に対する看護の方法を学び、実習をとおして看護実践能力につなぎます。さらに、実習をとおしては、安心・安全を保障する援助の実践を積み重ねます。

母性看護学3科目（3単位）では、女性のライフサイクルの健康に対応する能力を養います。また、実習ではマタニティサイクル期にある母子とその家族を総合的に理解し人間の生命の誕生と尊厳について考え、人間をかけがえない存在として理解していくための過程をたどります。

精神看護学3科目（3単位）では、精神機能に対応する能力を養うための知識を深めます。実習をとおしては、対象との関係を丁寧に振り返り、自分自身の行動が対象に与える影響について深く考え自分の傾向を見つめていきます。これらの過程をとおして援助的人間関係や治療的コミュニケーションについて学びを深めていきます。

看護の統合と実践は3科目（3単位）で構成し、医療安全をはじめチーム医療における看護マネジメントや多職種と連携・協働するための基礎的知識と実践力を身につけます。いよいよ看護師として活躍する直前の重要な科目です。

また、各看護学において共通する7科目（7単位）の領域横断科目を設定し、包括的、継続的な看護を展開するための知識を身につけます。領域横断科目は、看護師独自の専門性をもつ判断力や多職種と連携・協働する力を身につけるために欠かせない科目となります。

各看護学領域の臨地実習は総計12科目（23単位）で構成し、講義で学んだ知識・技術・態度を実践の場で活かし理論と実践を結びつけます。看護の対象を前に展開する実習は看護師としても、人としても成長できる貴重なものとなります。

実習をとおして理論と実践を統合した後に履修する地域・在宅看護論Ⅳでは、事例をとおして人々が住み慣れた地域で暮らすための多職種と連携・協働にある支援についてまとめます。同じく、看護実践演習では複雑な状況下での看護場面を想定した演習をとおして看護実践力に導き、3年間の学びをまとめ看護師国家試験に臨みます。

専門分野を構成する領域

基礎看護学
領域横断
地域・在宅看護論
成人看護学
老年看護学
小児看護学
母性看護学
精神看護学
看護の統合と実践
臨地実習

臨地実習

科目区分	専門分野	科目名	基礎看護学実習 I	単 位	1 単位
対象学年	1 学年	学 期	後期	時 間	45 時間
担当教員	岡部 裕美	実務経験 関連資格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	病院や病室の機能や構造の説明や見学、または受け持ち部屋の患者とのコミュニケーションをとって患者の思いを知るにより、その患者にとっての快適な療養環境を整える。また、実習体験と看護活動の見学・説明により、その意味を考える。				
目 標	1. 病院・病棟・病室環境を知り、療養生活を整えることで、患者の生活を理解することができる。 2. 患者との関わりを通して患者の思いを知ることができる 3. 病棟看護師の看護活動を見学し、その意味を考えることができる。 4. 自分の役割を果たすことができる。 5. 自己の課題解決に向けて主体的に学習ができる。				DP への対応
					DP 1・2・3・4 DP 1・2 DP 3・4 DP 5 DP 6
概 要	・病院の組織・構造・機能、看護の機能と役割について見学及び説明を受け理解する。 ・看護師と共に行動し、看護活動の実際を理解する。				
方 法	病棟単位に実習を行う				
実習場所	国立病院機構西別府病院 九州大学病院別府病院				
成績評価の基準と方法	基準 : 履修規定第 28 条に規定する評価基準に準ずる。 方法 : 別に評価項目を定め、それに沿って評価する。 60 点以上が合格、60 点未満は別紙に定めるとおり再実習を行う。				
使用教材	テキスト	看護学概論(医学書院)、基礎看護技術 I・II(医学書院)			
	参考図書				
	その他				
臨地実習以外の学習方法	実習に必要な事前学習にしっかりと取り組みましょう。				
履修上の留意点	これまで学んできた知識、技術を復習し、実習の中で使えるようにしましょう。 看護の基礎となる実習です。実習の中の「気づき」を今後につないでいきましょう。 実習は、メンバー、指導者、教員の力を大いに活用しましょう。				

科目区分	専門分野	科目名	基礎看護学実習Ⅱ	単 位	2単位
対象学年	2学年	学 期	前期	時 間	90時間
担当教員	岡部 裕美	実務経験 関連資格	病院における看護師経験・別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	対象に必要な日常生活援助は何かを考え、療養生活を整える援助を理解する実習である。「日常生活援助技術」は、病気や障害、加齢や幼弱などの理由から自力では日常生活に支障をきたす患者に対して、健康状態を理解し、必要度に応じた支援を行う技術である。具体的には、生活・療養環境を整え、身体の清潔を保ち、適切な衣服を選んで更衣・整容を行い、食事や排泄をし、休息・睡眠をとり、姿勢を保ったり体位を変えたり移動・移乗したりすることへの援助技術である。援助の実践ではコンセプト学習による臨床判断の思考過程についても学習する。今患者に不足している基本的ニーズは何か、必要としている援助は何かを見出し、患者に合った日常生活援助を、安全・安楽を踏まえて実施し、個別を配慮し、自立を促す方法で考え、実習指導者の指導の下実施することを目的とする。				
目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 受け持ち患者とコミュニケーションを図ることができる。 2. 受け持ち患者の基本的ニーズが説明できる。 3. 受け持ち患者の基本的ニーズの充足に向けた援助ができる。 4. 自分の役割(メンバーシップ)を果たすことができる。 5. 受け持ち患者の基本的ニーズを充足するための看護について説明できる。 6. 看護実践を振り返り、自己の課題解決に向けた学習ができる。 			DP への対応 DP1 DP2・3 DP2・3 DP2・3・5 DP3・4 DP6	
概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・受け持つ患者を1名担当し、患者に必要な日常生活援助を指導者とともに実施する。 ・コミュニケーションをとおして良好な人間関係を図る。 ・自分の言動に責任を持つ。 ・看護実践のなかでの「気づき」から、援助の意味を考える。 				
方 法	病棟単位に実習を行う 受け持ち患者を1名担当し、援助を考える。				
実習場所	国立病院機構西別府病院 九州大学病院別府病院 厚生連鶴見病院				
成績評価の基準と方法	基準 : 履修規定第28条に規定する評価基準に準ずる。 方法 : 別に評価項目を定め、それに沿って評価する。 60点以上が合格、60点未満は別紙に定めるとおり再実習を行う。				
使用教材	テキスト	看護学概論(医学書院)、基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ(医学書院)			
	参考図書				
	その他				
臨地実習以外の学習方法	実習に必要な事前学習にしっかりと取り組みましょう。				
履修上の留意点	これまで学んできた知識、技術を復習し、実習の中で使えるようにしましょう。 看護の基礎となる実習です。実習の中での「気づき」を今後につないでいきましょう。 実習は、メンバー、指導者、教員の力を大いに活用しましょう。				

科目区分	専門分野	科目名	基礎看護学実習Ⅲ	単 位	2単位
対象学年	2学年	学 期	後期	時 間	90時間
担当教員	岡部裕美	実務経験 関連資格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	看護の対象となる人々を理解し、対象に個別的で適切な看護を実践するための基本的な知識・技術・態度を養うために、入院治療を受けている対象を1名受け持ち看護過程の展開を行う。看護過程の展開を行う中で自らの看護を振り返り、個性に応じた援助とともに看護職者にふさわしい態度や学習姿勢について学ぶ。				
目 標	1. 患者の思いに理解を示すコミュニケーションができる。 2. 看護に必要な看護過程の展開（情報収集、アセスメント、看護診断、期待する成果の設定、看護計画の立案、実施、評価）ができる。 3. 看護チームの一員として責任をもった行動ができる。 4. 看護実践を振り返り自己の課題を明確にすることができる。				DP への対応 DP3 DP1・2・3・4 DP1・2・3・5・6
概 要	・受け持ち患者を1名担当し、看護過程を展開する。 ・看護実践の中の「気づき」を活用し、援助に反映できる。 ・看護チームの一員であることを自覚し、責任ある行動をとる。				
方 法	病棟単位に実習を行う 受け持ち患者を1名担当し、看護を考える。				
実習場所	国立病院機構別府医療センター 国立病院機構西別府病院 厚生連鶴見病院				
成績評価の基準と方法	基準：履修規定第28条に規定する評価基準に準ずる。 方法：別に評価項目を定め、それに沿って評価する。 60点以上が合格、60点未満は別紙に定めるとおり再実習を行う。				
使用教材	テキスト	看護学概論(医学書院)、基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ(医学書院)			
	参考図書	看護がみえる④看護過程の展開(メディックメディア)、看護診断ハンドブック(医学書院)			
	その他				
臨地実習以外の学習方法	実習に必要な事前学習にしっかりと取り組みましょう。				
履修上の留意点	これまで学んできた知識、技術を復習し、実習の中で使えるようにしましょう。 看護の基礎となる実習です。実習の中の「気づき」を今後につないでいきましょう。 実習は、メンバー、指導者、教員の力を大いに活用しましょう。				

科目区分	専門分野	科目名	地域・在宅看護論実習 I	単 位	2 単位
対象学年	1 学年	学 期	前期	時 間	90 時間
担当教員	木畑 孝子	実務経験 関連資格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	地域の様々なライフステージにある多様な人々の日々の生活を知り、人々の健康上の課題や人々の暮らしを支えるものについて理解する。また、看護の道への学習意欲を高め看護学生として学ぶべきことを明確にする。				
目 標	1. 地域に暮らす人々と、適切な言葉遣いと内容でコミュニケーションを図る。 2. 地域に暮らす多様な人々の日々の活動を理解する。 3. 地域に暮らす多様な人々の健康上の課題を理解する。 4. 地域住民の健康な暮らしを支える人々の活動を理解する。 5. 看護学生としての自覚をもち、責任ある行動をとる。 6. 看護を学ぶ目的と課題を明確にし、自分の将来像を描く。				DP への対応 DP1 DP2・3・4 DP2・3・4 DP2・3・4・5 DP4 DP6
概 要	入学後早期の 6 月末には設定し、医療・看護における知識がほとんどない状態で臨む見学を中心とした実習である。本実習では、地域の人々が生活する様々な場に足を運び、人々の生きるための活動、生活を支えるための活動を知ることで、地域に暮らす人々が支え合いの中で生きていることを、五感をとおして感じながら人々の暮らしについて想像し、看護の対象として意識していくことをねらいとしている。同時に、様々な活動の場で展開する実習はグループで計画・行動することを基本としながら自ら考え行動できる力を養い、今後の学習や学校生活を送るために必要な協調性や主体性を身につけるための導入となること、人々の健康な暮らしを支える看護への期待を膨らませ看護を学ぶ目的を明確にすることを期待している。				
方 法	臨地実習（見学実習）・学内実習				
実習場所	別府市内自治会・老人クラブ等各種団体（別府市 健康推進課） 別府市子育て支援センター ・南部子育て支援センター、中部子育て支援センター、北部子育て支援センター 社会福祉協議会 別府市医師会地域保健センター 別府市内診療所 ・岡田眼科医院・かめがわ耳鼻咽喉科・矢田子どもクリニック・おおさわクリニック・岡島医院 ・佐藤整形外科医院・平井整形外科医院 別府市内病院 ・内田病院・児玉病院・別府中央病院・村橋病院				
成績評価の基準と方法	基準：履修規定第 28 条に規定する評価基準に準ずる。 方法：別に評価項目を定め、それに沿って評価する。 60 点以上が合格、60 点未満は別紙に定めるとおり再実習を行う。				
使用教材	テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論（医学書院）			
	参考図書				
	その他	講義資料			
臨地実習以外の学習方法					
履修上の留意点	地域にある人々の生活の場で展開される実習です。気持ちのよい挨拶をはじめとし、基本的な姿勢・態度には十分心がけ実習に臨みましょう。				

科目区分	専門分野	科目名	地域・在宅看護論実習Ⅱ	単 位	2単位
対象学年	3学年	学 期	後期	時 間	90時間
担当教員	木畑 孝子	実務経験 関連資格	病院における看護師経験・別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	地域で療養する人々とその家族の多様な生活を理解し、地域において看護を実践するための基本的な知識・技術・態度を身につけること、また、療養者と家族が可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを、人生の最期まで続けることができるための包括的な支援や看護の役割について考えることを目的とする。				
目 標	1. 療養者と家族、および療養者を支える周囲の人々とよい人間関係を築く。 2. 療養者と家族が望む暮らしを実現するための看護を実践する。 3. 地域・在宅における看護を科学的根拠に基づき実践する。 4. 専門職業人としての倫理や責任について考え、すべての人々に対して誠実な態度で接する。 5. 地域包括ケアシステムにおける多職種連携の必要性、看護師の役割について考察する。 6. 地域・在宅における人々の望む暮らしについて考え、理想の看護師像を明確にする。				DPへの対応
					DP1 DP2・3 DP2・3 DP5 DP3 DP4
概 要	3年次の9月～10月と看護学校3年間の集大成となる時期に位置づけている。講義や実習をとおして培ってきた知識・技術を応用し、居宅（在宅）や施設で療養する人とその家族の看護、住み慣れた地域や居宅（在宅）での暮らしを実現するための地域包括ケアシステム、システムの中で活躍する多職種の連携の実際を学び、その過程をとおして、自助・互助・共助・公助の観点から人々の生活を幅広く理解し、専門職としての看護師の役割を明確に自覚していくことをねらいとしている。人は、地域で生まれ、地域で最期の時を迎える、人々の暮らしは地域にあり、その暮らしは人と人とのつながり、支え合いによって成り立っていることを理解していく中で、いのちの尊厳、人々の価値観や望む暮らし、自己の価値観に新たな気づきを得ること、看護師としての姿勢・態度について改めて考える実習となることを期待している。				
方 法	臨地実習				
実習場所	別府市内訪問看護ステーション 別府市地域包括支援センター 高齢者福祉施設				
成績評価の基準と方法	基準：履修規定第28条に規定する評価基準に準ずる。 方法：別に評価項目を定め、それに沿って評価する。 60点以上が合格、60点未満は別紙に定めるとおり再実習を行う。				
使用教材	テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論（医学書院）			
	参考図書				
	その他	講義資料			
臨地実習以外の学習方法					
履修上の留意点	気持ちのよい挨拶をはじめとし、基本的な姿勢・態度には十分心がけ実習に臨みましょう。また、地域・在宅看護論実習Ⅱは、基本的な看護技術の応用の極みとなります。安全・安楽な援助を提供するために十分な学習・練習をしてから実習に臨みましょう。				

科目区分	専門分野	科目名	成人・老年看護学実習 I	単 位	2 単位
対象学年	3 学年	学 期	前期	時 間	90 時間
担当教員	小林 恭子	実務経験 関連資格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	健康レベル別に見た成人期・老年期にある患者や家族の急性期(周術期)における看護を学ぶ。病態や症状が急激に変化した状態の患者や、手術(侵襲のある処置等)を受ける患者を受け持ち、治療や看護によって回復に向かう患者の経過に応じた身体的・精神的・社会的ニーズを理解する。また、看護の実践ではコンセプト学習を取り入れ、速やかに回復するための援助、身体的・精神的苦痛を軽減するための援助、健康管理能力の獲得に向けた退院支援の見学や実施をとおして、急性期看護の実際を学ぶ。				
目 標	1. 対象と良好な援助的関係を構築できる。 2. 急性期(周術期)にある対象の経過に応じたアセスメントができる。 3. 急性期(周術期)にある対象が生命を維持し、急速な健康状態の変化から回復する過程において、ニーズに応じた看護実践ができる。 4. 医療チームの中で多職種との連携・協働と継続看護について理解できる。 5. 医療チームの一員として、責任ある行動をとることができる。 6. 実習体験を通して、急性期(周術期)にある患者の看護について自己の考えを述べることができる。			DP への対応 DP1・2・3 DP1・2・3 DP5 DP6 DP4	
概 要	<p>本実習の対象は、手術を受ける成人期、老年期にある周術期の患者である。</p> <p>対象は急性期にあり、術式や回復過程などによって異なる個別のニーズを持つ。看護師は周術期の時期ごとに、侵襲を伴う治療を安全に受けるために必要なことや、手術に伴う様々な影響を理解し、ニーズを充足できるように支援することが求められる。</p> <p>術前の看護として、手術による対象の意思決定の過程をアセスメントし、対象が手術について十分に理解・納得したうえで意思決定できるように支援する。また術前準備は適切かアセスメントし、安全に検査や準備が行われるように、手術に伴う影響や対処状況をアセスメントし、対象が安心して手術に臨むための支援について学ぶ。</p> <p>術中の看護として、術中のリスクをアセスメントし感染管理や安全管理、合併症予防、観察や機械出し、手術進行に即した手術室全体の調整、チームで安全・安楽で円滑な手術の遂行場面を見学や説明をとおして学ぶ。</p> <p>術後の看護として、術後のリスクをアセスメントし、対象の早期回復や疼痛管理、リハビリテーション、合併症予防などを適切に行えるよう支援し、早期回復につなげ、退院に向けて新たなセルフケア能力の獲得や、継続的な健康管理能力の獲得のための看護を学ぶ。</p> <p>本実習では、臨床判断モデルを活用したコンセプト学習を取り入れ、リアルタイムに状況をとらえ、判断し、実施するための思考と実践を支援していく。看護実践時の看護師の臨床判断の思考発話をすることで、看護師のように考えることを学ぶと同時に、学生自身の実践を省察することにより、実施されている看護の意味付けをし、タイムリーな臨床判断の基礎的能力の育成につなげる。</p>				
方 法	臨地実習・学内実習				
実 習 場 所	中村病院 別府医療センター 九州大学病院別府病院 新別府病院 大分医療センター				
成績評価の基準と方法	基準 : 履修規定第 28 条に規定する評価基準に準ずる。 方法 : 別に評価項目を定め、それに沿って評価する。 60 点以上が合格、60 点未満は別紙に定めるとおり再実習を行う。				
使用教材	テキスト	高齢者と成人の周手術期看護(医歯薬出版株式会社) ・1 外来/病棟における術前看護 ・2 術中/術後の生体反応と急性期看護			
	参考図書				
	その他				
臨地実習以外の学習方法					
履修上の留意点					

科目区分	専門分野	科目名	成人・老年看護学実習Ⅱ	単 位	2 単位
対象学年	3 学年	学 期	前期	時 間	90 時間
担当教員	田中要子	実務経験 関連資格	病院における看護師経験・別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	治療が終了、または治療を続ける中で身体の状態が安定してきた慢性期にある患者の看護を展開する。成人期・老年期にある患者の健康の維持増進、疾病悪化や予防を踏まえたセルフケア獲得と、生活の再構築に向けた援助について学ぶ。				
目 標	1. 慢性期にある対象と良好な援助的関係を構築できる。 2. 慢性期にある対象がその人らしく生活を営むための看護ができる。 3. 慢性期にある対象の生活の再構築に向けた支援における看護職または多職種との連携・協働について理解できる。 4. 医療チームの一員として、責任ある行動をとることができる。 5. 看護実習を振り返り、自己の課題を明確にすることができる。				DP への対応
					DP1・2 DP1・2・3・4 DP3・4 DP5 DP6
概 要	治療が終了、又は治療を続ける中で身体の状態が安定してきた慢性期にある患者の看護を展開する。その中で、患者の身体機能やより良い生活が向上するための援助を考え実践し、患者が健康な生活を取り戻していく過程を支援する看護の役割について考える。				
方 法	臨地実習・学内実習				
実習場所	別府医療センター 九州大学病院別府病院 大分医療センター 中村病院 新別府病院				
成績評価の基準と方法		基準：履修規定第 28 条に規定する評価基準に準ずる。 方法：別に評価項目を定め、それに沿って評価する。 60 点以上が合格、60 点未満は別紙に定めるとおり再実習を行う。			
使用教材	テキスト				
	参考図書				
	その他				
臨地実習以外の学習方法					
履修上の留意点					

科目区分	専門分野	科目名	成人・老年看護学実習Ⅲ	単 位	2単位
対象学年	3学年	学 期	前期	時 間	90時間
担当教員	塩田 和泉	実務経験 関連資格	病院における看護師経験・別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	成人期または老年期にあり、治療を尽くしても回復の見込みが難しい対象や、疾病が末期の状態にある終末期の対象を受け持ち、健康障害による対象の全人的苦痛を理解し、対象がよりよく生きるための支援について、看護過程の展開をとおして学ぶ。また、対象の全人的苦痛を緩和するためのQOLの維持・向上に向けた看護について考察する。そして、対象とのかかわりをとおして、命の尊厳と可能性について考える機会とする。				
目 標	1. 対象の思いに寄り添ったかかわりができる。 2. 対象を全人的に理解し、その人らしくよりよく生きるための援助を実施できる。 3. 対象がその人らしくよりよく生きるための多職種との連携・協働と、看護師の役割について理解できる。 4. 医療チームの一員として、責任ある行動をとることができる。 5. 看護実習を振り返り、自己の考えを明確にすることができる。			DPへの対応 DP1・2・3 DP1・2・3 DP5 DP6 DP4	
概 要	成人老年看護学実習Ⅲ(以下本実習という)は、終末期および治癒困難な対象に応じた看護を実践するための基礎的能力の育成を目指している。高齢化が進み多死社会を迎えた今、人生の最終段階における医療・ケアにおいて、看護師に期待される役割はとて大きい。 ICN 看護における看護師の基本的責任“苦痛を緩和する”の看護実践の責務と倫理について学ぶ必要がある。そこで、今をどう生きるかを問いながらも死への不安を抱え、病とともに生きる対象とその家族の身体的・心理的苦痛の緩和、アドバンスケアプランニング(ACP)や意思決定支援のあり方、多職種連携・チームアプローチについて学ぶことが必要である。また、それらの学習を通して、命の尊厳、倫理、看護師の役割について考えられるように、気づきにつながる学習過程が重要である。				
方 法	臨地実習				
実 習 場 所	中村病院 村橋病院 別府中央病院 内田病院 児玉病院 九州大学病院別府病院 鶴見病院 緩和ケア病棟				
成績評価の基準と方法	基準 : 履修規定第28条に規定する評価基準に準ずる。 方法 : 別に評価項目を定め、それに沿って評価する。 60点以上が合格、60点未満は別紙に定めるとおり再実習を行う。				
使用教材	テキスト				
	参考図書				
	その他				
臨地実習以外の学習方法					
履修上の留意点					

科目区分	専門分野	科目名	小児看護学実習	単 位	2 単位
対象学年	2～3 学年	学 期	後期～前期	時 間	90 時間
担当教員	羽田野 京子	実務経験 関連資格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	著しく成長を遂げる小児期の成長・発達を理解し、子どもに適したコミュニケーションを図り子どもに必要な養護についての支援を学ぶ。そのうえで、健康障害のある子どもの成長・発達の影響は何かを考え、その影響が最小限となるよう看護を実践することを目的とする。				
目 標	1. 子どもの成長・発達および健康障害に応じたコミュニケーションを図ることができる。 2. 小児各期における身体的・精神的・社会的な成長・発達の特徴を理解できる。 3. 小児の健康障害の特徴を理解し、対象に応じた看護の実際を理解できる。 4. 小児を取り巻く多職種の連携の中で小児看護の役割について考える。				DP への対応 DP1・2・3 DP1・2・3 DP1・2・3・5 DP4・6
概 要	保育所実習では、健康な小児の成長・発達の実際と発達段階に応じた関り方について学ぶ。外来実習では、小児が受ける医療サービスの実際を小児特有の診療の補助技術について学ぶ。病棟実習では、小児各期の特徴を理解し、成長発達段階をふまえ健康障害のある小児の関わり方や必要な看護援助および家族を含めた支援について学ぶ。最後に、本実習をとおして、総合的に考える視点を学び、小児科領域における看護師の役割について考える機会である。				
方 法	臨地実習・学内実習				
実習場所	<保育所> 中央保育所・鶴見保育所・内亀保育所 <外来> 鶴見病院・矢田こどもクリニック <病棟> 国立病院機構西別府病院・別府発達医療センター				
成績評価の基準と方法	基準 : 履修規定第 28 条に規定する評価基準に準ずる。 方法 : 別に評価項目を定め、それに沿って評価する。 60 点以上が合格、60 点未満は別紙に定めるとおり再実習を行う。				
使用教材	テキスト	医学書院 小児看護学概論、小児看護学各論			
	参考図書	ナーシング・グラフィカ 小児の発達と看護			
	その他	講義資料			
臨地実習以外の学習方法	事前学習をして実習に臨みましょう。				
履修上の留意点	学生の態度や学ぶ姿勢は小児に大きく影響します。常に心掛け行動しましょう。				

科目区分	専門分野	科目名	母性看護学実習	単 位	2単位
対象学年	3学年	学 期	前期	時 間	90時間
担当教員	貞清 瑞枝	実務経験 関連資格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	褥婦と新生児を受持ち、正常な妊娠・分娩・産褥・新生児期の経過及び必要な看護について理解する。また、対象をウェルネスの視点でとらえ身体的・精神的・社会的・霊的側面から統合体として理解し、新しい命の誕生をとおして、生命の尊厳、や「親になるということ」について考察することを目的とする。				
目 標	1. 対象と良好な関係を構築することができる。 2. 妊娠各期の母体と胎児の発育状況が理解できる 3. 分娩の経過に伴う母子の身体変化を理解できる 4. 産褥期の経過と健康状態を理解できる 5. 新生児の経過と健康状態を理解できる 6. 継続看護の必要性や多職種連携について理解できる 7. 生命の尊厳や親になることについて考えることができる。 8. 医療チームの一員として、責任ある行動をとる事ができる 9. 実習全体をふりかえり、学びを整理し課題を明らかにできる。				DPへの対応 DP1・5 DP2・3 DP2・3 DP2・3 DP2・3 DP3・5 DP2・3・4 DP4 DP6
概 要	母性看護学は、その対象となる妊婦・産婦・褥婦・新生児およびその家族への看護に加え、次世代の健全育成を目指し、母性の一生を通じた健康の維持・増進・疾病予防を目的とした領域である。母性看護に期待される役割は幅広いものであるが、本校では女性の一生の中で最も変化の大きい妊娠期・分娩期・産褥期の援助に焦点を当て、病院又は診療所における実習を行う。昭和23年に制定された「保健師助産師看護師法」は、看護師について「第5条 この法律において「看護師」とは、厚生労働大臣の免許を受けて、傷病者もしくは褥婦に対する療養上の世話又は診療の補助を行うことを業とする者をいう。」と定義している。母性看護学において学ぶべきことは多岐にわたるが、法律のうえでも褥婦の看護は看護師の業であるとされていることに鑑み、本実習では、褥婦に対する援助を中心に展開することとした。本実習では、褥婦というひとりの女性のライフサイクルと健康について着目し、想像を膨らませ、母性看護に必要な技術を身につけてゆくこととしたい。また、妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の看護についての見学または実施を多く計画し、女性のライフサイクルに応じた看護実践能力の育成を目指したい。				
方 法	臨地実習・学内実習				
実習場所	国立病院機構別府医療センター あおい産婦人科 大分県立病院				
成績評価の基準と方法	基準：履修規定第28条に規定する評価基準に準ずる。 方法：別に評価項目を定め、それに沿って評価する。 60点以上が合格、60点未満は別紙に定めるとおり再実習を行う。				
使用教材	テキスト	実習要項、母性看護学概論、母性看護学各論、看護がみえる、国民衛生の動向			
	参考図書	母性看護学概論（医学書院）母性看護学各論（医学書院）看護がみえる 産科（メディカ出版）			
	その他	実習施設ごとに必要物品についてオリエンテーション時に説明する。			
臨地実習以外の学習方法	看護過程展開の記録は、病棟において受け持ちの情報収集・アセスメントを終了し、看護診断、看護計画の立案は自宅学習とする。母性看護の基本技術は、自己練習をして実習に臨む。				
履修上の留意点	欠席をする場合は、事前に実習担当教員へ理由をそえて欠席届を提出する。				

科目区分	専門分野	科目名	精神看護学実習	単 位	2単位
対象学年	3学年	学 期	前期	時 間	90時間
担当教員	芦刈 美佳 塩田 和泉	実務経験 関連資格	病院における看護師経験・別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	コミュニケーションを通し対象と信頼関係を形成し、そのコミュニケーションを振り返り、自己洞察をする。自己洞察による自己理解が、対象理解や対象への援助につながることを学ぶ。また、精神疾患を持っている対象を身体・心理・社会的な側面とリカバリーの視点で考え、対象のリカバリーを支えるために大切となる、対象のストレスについて考える。そして、対象との関わりを通して、どのような心の苦悩や悲しみをもっているのかを感じ、考える機会とする。				
目 標	1. 対象と良好な関係を構築することができる。 2. 精神疾患をもつ対象を身体・心理・社会的な側面とリカバリーの視点でとらえ、対象がもつストレスに気づくことができる。 3. 精神疾患を持つ対象の看護援助について理解することができる。 4. 医療チームの一員として、責任ある行動をとることができる。 5. 実習全体を振り返り、学びを整理し、自己の考えを明確にすることができる。			DP への対応	
				DP 1 DP2・3 DP2・3 DP4 DP4・5	
概 要	精神看護学実習では、受け持ち患者とのコミュニケーションを図りながら信頼関係を育み、対象の理解を深めていく。対象者との患者―看護師関係を構築することができなければ、得られる情報は表面的なものになり、相互に深い理解は得られない。そして、対象との信頼関係を構築できなければ、ケア計画の共同設計や共有ができず、対象の希望とケアの方向はずれていってしまう。看護師は、自分が何を覚知し、どのようなことを考えたか、またどのような考え方・行動の傾向があるのかを考察し、自分自身を振り返る必要がある。自身のコミュニケーションにおける傾向を知り、対象と自分の間に起きている事実をとらえながら対象理解を深めていく。そのように、学生もまずは自分自身を振り返ることによって、自己洞察ができるように練習を行う。その対象とのコミュニケーションから、自身の考え方・行動の傾向について考察するとともに、対象の理解が進むように学んでいくことを目的とし、また、自身のストレスや新たな自分についても気づいていけるように学ぶ。学んでいく中で、対象を含めたすべての人をリカバリーの視点で考え、ストレスに気づき、さまざまな可能性を信じながら人々の生活を支える思考を培うことを期待したい。多くの精神看護援助技術の実際を目の当たりにし、どのような目的で、その技術が使用されているのかに気づき、考える。そして、病院から地域生活への移行期の生活を整える援助の考え方と実際を知り看護師の役割について考える。地域生活では、社会資源の活用をすることで、対象のリカバリーの促進につながる。多職種がどのように連携しているのか、そして地域で生活する対象がどのような社会資源の利用をしているのかを学ぶことで、どのようにストレスを最大限に活かすことができるのかを考える。				
方 法	臨地実習				
実習場所	山本病院・鶴見台病院・向井病院				
成績評価の基準と方法	基準 : 履修規定第 28 条に規定する評価基準に準ずる。 方法 : 別に評価項目を定め、それに沿って評価する。 60 点以上が合格、60 点未満は別紙に定めるとおり再実習を行う。				
使用教材	テキスト				
	参考図書				
	その他				
臨地実習以外の学習方法					
履修上の留意点					

科目区分	専門分野	科目名	統合実習	単 位	2単位
対象学年	3学年	学 期	後期	時 間	90時間
担当教員	服平 敏枝	実務経験 関連資格	病院における看護師経験・別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	医療チームの一員として、看護マネジメントの視点を持ち、複数受持ちの看護や多重課題をとおして、看護の知識・技術・態度を統合し、専門職業人として必要な看護実践能力を高める。				
目 標	1. 対象の状態と、対象に行われている看護実践を結びつけて理解することができる。 2. 複数受持ちの状況において、看護チームにおけるメンバーシップおよびリーダーシップを理解し、チームで協力しながら安全・安楽に看護を実施することができる。 3. 複数の対象の健康状態やニーズに応じた看護の優先度の判断や時間管理についての考え方が理解できる。 4. よりよい看護を提供するための病院および病棟における看護マネジメントの実際と、組織としての取り組みを理解することができる。 5. チーム医療における多職種連携・協働を学び、看護師としての役割や責務を理解することができる。				DP への対応 DP2・3 DP1・3・4・5 DP3 DP4・5・6 DP4・5
概 要	2024年に医師の働き方改革が実施されることとなり、今後の入院医療のあり方の見直しと、在宅医療の推進がされていく。その中で多職種連携によるチーム医療の展開が必要とされている現在の状況下では、看護師に求められる期待と役割が今まで以上に大きくなっていくと考えられる。日進月歩の医療においては、提供するサービスの質を保証し、向上させていくことが強く求められ、看護ケアにおいても、質の向上は重要関心事となっている。これに応じていくためには、第一線で患者に看護を提供する看護職の研鑽が必須となる。 統合実習（以下本実習とする）は、3年次後期に実施する看護学を修得する上での集大成の実習科目である。地域医療の担い手としての能力を発揮するために、1年次からの講義や演習や実習での学びをふまえ、さらに専門職業人としての倫理や責務に基づいて考え、行動できる姿勢を身につけることができるよう2週間の実習を行うこととしている。 本実習では、これまでの学習を統合させ、チーム医療および多職種との連携・協働の中での看護師としての役割を理解し、安全な医療や看護が提供できる能力を、より実践に近い状況で学習することとしている。そこでは主体的に学ぶ姿勢が求められ、これまでの臨地実習で習得した知識・技術・態度を活用し、より高い看護実践能力を養うこととなる。また、看護学生が卒業後に病院などの組織で働くには、看護ケア提供システムの理解が必要となり、看護におけるマネジメント、チーム医療、医療安全、看護の質保証などに焦点をあてて、看護実践を学び、将来のキャリアを見据えるための一助とし、専門職業人としての役割、責務、態度について学習を深めることとする。				
方 法	臨地実習				
実 習 場 所	国立病院機構西別府病院 新別府病院 九州大学病院別府病院 中村病院				
成績評価の基準と方法	基準：履修規定第28条に規定する評価基準に準ずる。 方法：別に評価項目を定め、それに沿って評価する。 60点以上が合格、60点未満は別紙に定めるとおり再実習を行う。				
使用教材	テキスト				
	参考図書				
	その他				
臨地実習以外の学習方法					
履修上の留意点					

